
姫様！脱出しよう

西崎想

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

姫様！脱出しよう

【コード】

N0269BA

【作者名】

西崎想

【あらすじ】

ヨシユアはミランゼ国の王女様。今日も人の役に立っていた。しかしヨシユアの周りに良からぬ思いを抱くものが……。

ヨシユアの一日一善

「よし、これでいい」

木と木を繋いだ少女がそういう。

「ヨシユア姫様、ありがとうございます」

老木の修復を終えた初老の男性がありがたそうにお礼を言う。

「気にするな、私は、して当たり前の事だと思っ」

そう言ったヨシユアは老人の肩を優しく叩いた。

彼女は、ヨシユア「ミランゼ」。

アンドル星のミランゼ王室の第一王位継承者だ。

はねつかえりな所が玉にきずだが、優しい心根の持ち主で、民にも好かれている。

彼女は、街によく行く。

今日もそれは一緒だった。

「マーク、どうだ？母親の具合は」

「ヨシユア、来てくれたのか！」

マークと言われた少年が王女を見て歓喜の声を上げた。

「私の薬、効いたか？」

そう、ヨシユアは恐々聞いた。マークは大きく頷いた。

「それはもう！具合は大分良いみたいだよ」

ヨシユアはほっと溜息。

「そうか……よかった」

「ヨシユア、本当にありがとう！恩に着るよ」

「いや、そんな」

ヨシユアは少し照れた。

「じゃあ、私に行くよ」

「うん、ありがとう、ヨシユア姫様」

大きく手を振って見送るマーク。

ヨシユア姫も手を時々振る。

「さあ、城に帰るか」

岐路に着いたヨシユア。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0269ba/>

姫様！脱出しよう

2011年12月31日17時51分発行